



令和5年度 「しがはいすくーるおすすめ本50選」優秀作品

(著者名の五十音順に掲載しています。また、氏名の有無は本人の希望によります)

1 『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬 著 早川書房

この本は、今の私たちと同じ年齢の女の子が主人公で、第二次世界大戦中のソ連が舞台になっています。「戦いたいのか、死にたいのか」もし、大切な人が目の前で殺され、大切なものを全て失ったとき、このように聞かれたらあなたはどのようにしますか？主人公や本のリアリティのある描写から、戦争になったら私たちはどのように行動するのかということについてとても考えさせられる本です。ぜひ、読んでみてください。

(彦根東高校2年 大山 陽菜さん)

2 『むかしむかしあるところに、死体がありました。』

青柳碧人 著 双葉社

一寸法師や花咲か爺さん、つるの恩返しなど誰もがよく知る有名な昔話の中で事件が起こります。5つの昔話をもとにした話の中で密室、アリバトリック、ダイイングメッセージなどミステリーのあらゆる王道がつまっています。さらに、昔話のおなじみの登場人物や世界観からミステリーをあまり読んでことがないという人や、そもそも小説が苦手でほとんど読まない人からしても読みやすく、ページをめくる手が止まらなくなる作品です。

(守山高校1年 湊 果帆さん)



3 『むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。』

青柳碧人 著 双葉社

誰もが一度は聞いたことがあるむかし話が、ミステリーと掛け合わさった一冊。知っているむかし話がテーマとして出てくるので、とても読みやすいです。犯人を考えながら読むことが出来て、短編集になっているので、飽きることなく楽しく読むことが出来ます。どの話も想像以上に難解で、入り組んだ展開をしているので、いい意味で期待を裏切ってくれる一冊になって、読めば必ず誰かに話したくなる作品です。

(国際情報高校2年 西野 菜奈さん)

4 『木曜日にはココアを』 青山美智子 著 宝島社

一つの小さなカフェからはじまる、小さな、でもあたたかい出来事が積み重ねられていくやさしい作品。章ごとにうつりかわっていく登場人物たちの一つひとつの物語が、きっとあなたを幸せでつつみこんでくれるはず。勉強のこと、友達のこと、部活のこと、将来のことなどやんだりしながら、あわただしく毎日を過ごすあなたにほっと落ちつくことのできるひとときを届けてくれる。

(守山高校1年 西本 風沙さん)

5 『午前0時の忘れもの』 赤川次郎 著 集英社

バスの転落事故により命を落とした人々が生きている大切な人達と再会し、最期の時間を過ごすという、神秘的で切ないストーリー。作品を通して命の貴さや生死を越えた愛の素晴らしさを実感できる内容となっています。特に最後の場面では、「生」と「死」の境界を明確に感じ、その儚さと残酷さにきっと多くの読者を涙させるでしょう。今生きているうちに、今いる愛する人達を大切にしようと思える一冊です。

(彦根東高校1年)

6 『六人の嘘つきな大学生』 浅倉秋成 著 KADOKAWA

就活を題材にしているミステリーで、伏線の量がとても多く息もつかせぬ展開となっている。人の本性を一面では計り知れないと、大切なことを気づかせてくれたり、伏線がきれいに回収されたときはとてもすっきりすることができ本となっている。語り手がどんどん入れ替わっていき、登場人物全員の心の中やどうしてそのような行動をとったのかなどを知ることができ、絶対に読んで後悔しない本となっている。

(国際情報高校2年 相原 すずかさん)

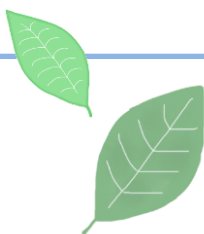


7 『人生を考えるのに遅すぎるということはない』

安藤忠雄ほか 著 講談社

「人生を考えるのに遅すぎるということはない」この本は十人の人が人生を振り返って書いた本で、今を生きる人達に向けてのアドバイスが書かれています。一番参考にしようと思ったのは吉本隆明さんで、境遇が似ていて共感できる部分が多く、例えば「自分はひとりだなど思うようになったら、自分のことがだんだん見えてきたということ」の部分です。誰にも当てはまるものがきっとあると思うので、ぜひ手に取ってみて下さい。

(瀬田工業高校1年 樫野 太一さん)



8 『陽気なギャングの日常と襲撃』 伊坂幸太郎 著 祥伝社

成瀬、響野、久遠、雪子の四人組銀行強盗が繰り広げる、何度も読み返したくなる一冊。脇役たちにも深いミステリーがあり、それが物語の重要な伏線と分かった時にはあっと驚かされました。フィクションの物語の中に実在する人物や物が登場することで、よりリアリティが増しています。特にこの本は、悪党×悪党の物語で、だまし合い、逆転に次ぐ逆転、心地良く楽しくなってくるようなテンポから、何度も読んでしまう注目の一冊です。

(八幡商業高校1年)

9 『砂漠』 伊坂幸太郎 著 新潮社

この本は大学生5人が色々な事件や出来事を経験していく話です。大学生活の自由で楽しい雰囲気を味わうことができ、早く大学生になりたいくなります。また西嶋という登場人物は自分の意思を強く持っていて、彼の言葉は読者の心に深く響きます。タイトルの「砂漠」はどういう意味が込められているのだろうと疑問に思った人、大学生活が不安な人、言葉から元気をもらいたい人は是非読んでみてください。

(米原高校1年 梶田 千愛さん)



10 『今夜、世界からこの恋が消えても』

一条岬 著 KADOKAWA

眠ると一日の記憶を忘れてしまう女子高校生と、無色透明な毎日を送っていた男子高校生が恋をするラブストーリーです。「本気にならないこと」を条件につき合い出した2人が徐々に魅かれていき、2人の人生は一変します。私はこれを読んで、人一倍努力して自分の記憶にとどめようとがんばっている姿から彼の存在を忘れたくないという気持ちが伝わってきて、とても感動しました。

(虎姫高校1年 山内 結心さん)

11 『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岩見一郎、古賀史健 著 ダイヤモンド社

アドラー心理学を皆さんはご存知ですか。精神科医であり心理学者であったアルフレッド・アドラーが提唱した「勇気の心理学」ともいわれる心理学です。本書はこのアドラー心理学をもとに一人の哲学者と青年が「嫌われる勇気」の真の意味を会話形式で議論し明らかにする姿が記されています。会話形式にすることで、読者も議論に参加している感覚を覚えます。読了された方々の物事の考え方が快転する一冊であると私は断言します。

(虎姫高校1年 漢 琳香さん)

12 『桜のような僕の恋人』 宇山佳佑 著 集英社

私がおすすめる本は桜のような僕の恋人です。この本は大切な人と過ごす一分一秒がどれ程尊いものか、どれ程儚いものなのかを教えてくれる素敵な小説です。学生時代という大切な時間を過ごすみなさんに、今生きていること、笑顔でいられていることの素晴らしさに、この本を読んで気づいて欲しくて私はおすすめしました。難病を患う美咲と晴人の儚い恋の物語。ぜひ手に取って、生きていくということを感じてみてください。

(長浜北星高校2年 小久保 寧々さん)

13 『ジブリアニメで哲学する』 小川仁志 著 PHP 研究所

この「ジブリアニメで哲学する」という本は世界的にも人気なジブリアニメを哲学という斬新な視点から考えることでジブリアニメの中だけでなく現実世界の本質をも明かしていく作品だ。そしてこの作品の目を奪うポイントは筆者自身の考察を分かりやすく述べたのちに読者も考えるようにされているところだ。この本を読んだ前後では物事への捉え方が変わりあなたを新しい世界につれていくだろう。

(米原高校1年 廣田 慶次郎さん)



14 『夏と花火と私の死体』 乙一 著 集英社

9歳の夏休み、五月は仲良しの弥生に殺されてしまいます。そのことを大人たちに隠すために始まった弥生と兄の健との死体隠しが、殺された五月目線で語られるお話です。衝撃的かつ狂氣的、そしておもしろいこの物語の中で、語り手は既に死んでいるのに「素足を見られて恥ずかしくなった。」と生きた人間のように語っていた場面で鳥肌が立ったのを今でも覚えています。ゾクゾクが癖になる作品なので、ぜひ一度読んでみてください。

(米原高校1年 藤居 由衣さん)



15 『僕が愛したすべての君へ』 乙野四方字 著 早川書房

もしもあの時、違う選択をしていたら…。誰もが一度は考えたことがあるだろう。この本はその選ばなかった選択肢、これが起こり得た可能性から成立する並行世界を2人の少年少女が行き来する。パラレルシフトしてきた君は「君」ではあるが君ではない。そんな違和感と向き合いながら様々な選択を強いられる2人。無数に存在する可能性をどう捉えるべきなのか考えさせられる本となっている。あなたは可能性ごとすべて愛せますか？

(守山高校2年 中島 奈月さん)

16 『ドミノ』 恩田陸 著 角川書店

この本は東京駅でのある事件を描くお話です。その時たまたま居合わせた、年配の方から子ども、犬までも多様な人たちが、少しずつ関与し、大事件を引き起こしてしまいます。一人ひとりの境遇が少しずつ重なっていく様子は、まるで運命のドミノが倒れていくかのよう！これは偶然？それとも必然？スピーディーに進んでいくこの本を手にとったからには読み終わるのも束の間！年齢問わず、すべての人に読んでほしい一冊です。

(虎姫高校1年 高森 湊さん)

17 『小説クールドジ男子』

甲斐田紫乃 著／那多ここね 原作 スクウェア・エニックス

このお話はクールでカッコイイけれど、人より少しだけドジな男子たちの物語です。なにもしていない時はクールな男子達、でも何かする度にドジまみれになってしまいます。そんな彼らは周囲の人を癒しながら、たくさんの思い出を繋いでいきます。ドジさえもクールにキマる男子たちに思わず笑ってしまうストーリーになっています。つかれた時に読むとついニヤニヤしてしまい疲れが吹き飛びます。小説が苦手な私も読みやすかったです。

(栗東高校1年 出口 陽菜さん)



18 『オルタネート』 加藤シゲアキ 著 新潮社

この本は、現代社会においてダウンロード必須となったアプリ「オルタネート」を舞台とした物語です。高校生限定の一風変わったマッチングアプリ「オルタネート」、たった1つのアプリから始まる高校生たちの群像劇。次々と移り変わる高校生の不安定な心を、数々の魅力的なキャラクターが描いていく本書では、人との関わり方について考えさせられます。この本は、インターネットが普及した今だからこそ読んでみてほしい一冊です。

(瀬田工業高校1年 大倉 将哉さん)

19 『私は私のままで生きることにした』

キムスヒョン 著／吉川南 訳 ワニブックス

私は私のままでいい。何が正解なのかわからない世の中で、誰のまねもせず、誰もうらやまず、自分を認めて愛する方法を教えてください。あなたも人と自分を比べて落ちこんでしまうことはありませんか。そんなとき、この本は私は私のままでいい、ありのままの私が特別なんだと気づかせてくれ、前向きに進んでいく力をくれる本となっています。ぜひ読んでみてください。

(虎姫高校1年 堀内 杏寧さん)

20『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティー 著／青木久恵 訳 早川書房

ある島に、性別・職業・年齢がばらばらな十人が招かれますが招待主の姿がありません。そして、脱出不可能の島で一人ずつ何者かに殺されていき恐怖の島になってしまいます。一体誰がなぜ殺していくのでしょうか。あなたは犯人が誰かわかるでしょうか。結末を知ったとき、きっと二度読みしてしまいます。予測不可能なミステリーを是非体験して下さい。

(MIHO 美学院中等教育学校 4年 矢田 晴子さん)

21『人外教室の人間嫌い教師 ヒトマ先生、私たちに人間を教えてくださいませんか…?』

来栖夏芽 著 KADOKAWA

過去のトラウマで「人間」が嫌いになった教師が、ひよんな事から「人間」を目指す人外少女が集まる学校に勤める、というのが大まかなあらすじです。様々な事情を抱えて人間を志す少女たちと教師の学園生活を覗きながら、人間に必要なものに気づかされます。人外女子たちは可愛い子ばかりで、“推し人外”が出来ること間違いなしです。

(米原高校 1年 神田 愛優さん)



22『余命 10 年』 小坂流加 著 文芸社

私がおすすめる本は、著者・小坂流加さんの「余命 10 年」です。昨年、映画化もされたこの物語は、主人公の高林茉莉が 20 歳という若さで難病になり 10 年という余命を宣告され、その 10 年間精一杯全力で生きたことが記されている話です。私はこの本を読んでより、健康であり、当たり前だと思っている日常が当たり前ではなく、いつ崩れるかわからないということを実感することが出来たのでこの本をおすすめしようと思いました。

(彦根翔西館高校 3年 西山 英里さん)

23『アリス殺し』 小林泰三 著 東京創元社

夢の中の殺人事件が現実世界でもおきている。この本は、主人公の栗栖川亜理が寝ている間、夢の中で別の自分となって不思議の国に行くことができ、そこで色々な事件に巻き込まれていく、というお話です。夢と現実の人物がつながっているため、いったい誰が誰なのか、予想しながら読み進めるのがとても面白いです。「不思議の国のアリス」が好きな人には、お馴染みのキャラクターが沢山でてくるので、すごくオススメです。

(大津高校 3年 河合 よつはさん)

24『怪物』 佐野晶 著／坂元裕二 脚本／是枝裕和 監督 宝島社

この本は2023年6月2日に公開された映画「怪物」のノベライズです。ある事件が起こり、その事件を主にある男の子、お母さん、担任の先生の三人の視点で見ていくヒューマンストーリーです。お母さん視点で見るとあの人が悪い人に見えるけど、他の人視点で見るとその人は全然悪い人ではなく、逆にまた他の人が悪く見える…。というとても不思議なお話です。最後まで目が離せないお話となっているので、ぜひ読んでみてください。

(大津高校1年 千秋 美紅さん)

25『臆病な僕らは今日も震えながら』

汐見夏衛 著 実業之日本社

生きる希望を失った女子高生と偶然出会った青年との関係がわかっていく感動する恋愛小説。最後まで結末がわかりにくいを読み終えるとなるほどと感動した。家族間でのつらさや、学校でのつらさがあるが新しい出会いによって変わっていく女子高生の変化がすてきだなと感じる。青年と女子高生との共通することや関係性を知ったときとても衝撃を受けた。読み終わったらとてもすっきりするので、ぜひ読んでみてほしい。

(能登川高校1年 東 真希さん)



26『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

汐見夏衛 著 スターツ出版

国のために自分の命を捧げる。これが尊いことであるとされていた戦時中の日本で生きる、一人の特攻隊員と一人の少女の物語がこの本では書かれています。自分の意志とは関係なく、無条件に「死」が待っている。そんな中で国のために力いっぱい生きることが、現代の人にとって考えもできないことだと思います。戦争の恐ろしさ、戦争とは何なのかをもう一度深く考えさせられる素敵な一冊になっています。

(大津高校1年)

27『小説天気の子』 新海誠 著 KADOKAWA

舞台は雨が降り続ける東京。離島から家出てきた主人公帆高は祈るだけで天気を晴れに出来る少女と出会う。運命に翻弄される二人が最後に選んだ結末とは。二人の選んだ選択や最後の言葉にあなたは何を感じるのか。自分は特別でないといけないと感じている人や決断に迷っている人におすすめの一作。高校生の今だからこそ感じるものがあるので一度だけでも読んでみてほしい。

(大津高校1年)



28『か「」く「」し「」ご「」と「」』

住野よる 著 新潮社



特別な能力を持つ5人の高校生が、自分だけの秘密を持つことで、生まれる気持ちと葛藤しながら懸命に生きる青春物語。5人全員の視点で書かれているため、それぞれの考えに共感し、感情移入できるところがこの本の魅力である。1番の見所は相手への思いを手紙に書くラストのシーン。お互いを思うがゆえにすれ違う所ももどかしい。もしあなたが人の気持ちが目に見える能力を持っていたら。5人の友情や恋の行方にも目が離せない。

(守山高校2年 松村 晃歩さん)

29『麦本三步の好きなもの』 住野よる 著 幻冬舎

麦本三步には好きなものがたくさんある。麦本三步は何気なく日々を過ごしているが、そんな毎日がなんだか幸せ。「当たり前」がたくさんだけどそれが日常。この本では、特に何かがおこるわけでもなく、ただ麦本三步の日常がかかっている。私がこの本の中で一番好きな言葉は、「死んじゃ駄目なんて、君の辛さが分からない私には決められない。君の人生だから」だ。ぜひ、日常に好きなものを見つけない人に読んでほしい。

(国際情報高校1年 廣瀬 奈桜さん)

30『ホームレス中学生』 田村裕 著 幻冬舎

私は、この本を読んだときとても衝撃を受けた。はじめは題名に惹かれて読み始めたが、内容を見ると本当に言葉を失うぐらい驚きでいっぱいだった。中学生が1人で家もないのに生活するという今までに見たことないようなストーリーだった。1人での生活が始まってすぐの数日間は誰からも手を借りずに食べ物を買って、公園のところで野宿をしていた。今までにないドキドキ感や感動、面白さ全てが詰まっている本なので絶対に見てほしい。

(能登川高校2年 播野 亜祐実さん)



31『神のダイスを見上げて』 知念実希人 著 光文社

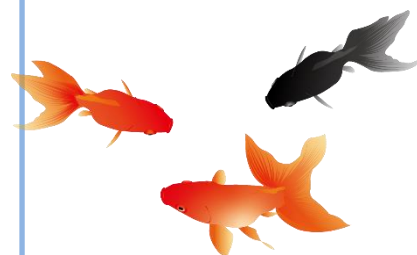
小惑星「ダイス」が地球に落ちるかもしれない。そんな中で主人公の漆原亮は姉の奇妙な死を受け、犯人への復讐を決意する。「裁きの刻」までの5日間で真実を明らかにすることはできるのか。主人公の言動は危険が多く、読み手までにも緊張感を与える。人を信じることや愛することの難しさが感じられる作品だ。ぜひ主人公と共に、迫るタイムリミットまでに犯人を突き止めて欲しい。

(守山高校2年 藤田 結衣さん)

32 『夜市』 恒川光太郎 著 角川書店

皆さんは夜市を知っていますか。夜市は定期的に開かれ、一度迷い込んでしまうと取引をするまで出られません。この本は、そんな夜市に迷い込んでしまった裕司が野球の才能と引き替えに弟を売るという話です。私がおすすめる理由は「日本ホラー小説大賞」を受賞しているホラー作品なのに怖くないからです。むしろこの本からは切なさや暖かみを感じ、とても複雑な気持ちになります。是非皆さんも読んでみて夜市を体験して下さい。

(国際情報高校1年 山口 新菜さん)



33 『僕はお父さんを訴えます』 友井羊 著 宝島社

中学1年生光一の飼い犬、「リク」が何者かによって殺されてしまったことをきっかけに同級生の沙紗と犯人探しをはじめました。様々な証拠から実父が犯人だと疑念を抱いた光一は、司法浪人の敦に協力してもらい実父を民事裁判で訴えることを決意します。実際にはじまった裁判で明かされる裏の真実は予想外で衝撃的でした。ミステリーで怖い物語だとだと思いきや最後には心温まる場面があり感動したのでおすすめです。

(国際情報高校2年 石田 みのりさん)

34 『勉強する気はなぜ起こらないのか』 外山美樹 著 筑摩書房

誰もが一度は勉強したくないと思ったことがあるでしょう。この本はそんな悩みを解決してくれるかもしれません。この本には心理学によるやる気の仕組みややる気をコントロールする方法が分かりやすく書かれています。また、読書への問いかけがとても多く、過去や今の自分をあてはめて読むことができます。だからあの時やる気があったのか、なんて思うかもしれません。勉強以外でもやる気に悩んだら、ぜひ読んでください。

(守山高校1年 栖原 育己さん)

35 『完全殺人』 西村京太郎 著 祥伝社

この本は、様々な人物が完全殺人を遂行させる様子を描いた小説がいくつか収録されているサスペンス傑作集です。この本の魅力は、犯人たちが完全殺人を犯すために使った色々な手段を知る中で、息を呑むような驚きがあるところです。また、一編一編が短く収まっているため、短い時間でサクッと読むことができるのもこの本の魅力の一つです。読み進めていく中で、最後にどんなオチが待っているのかを推理するのもいいかもしれません。

(大津高校1年 藏内 拓朗さん)

36 『話を聞かない男、地図が読めない女』

アラン・ピーズ、バーバラ・ピーズ 著／藤井留美 訳 主婦の友社

この本では、男女の違いを面白く、分かりやすく解説しています。高校生のみなさんにとって、異性とのコミュニケーションや人間関係は重要なテーマですが、この本を読めば会話や接し方で注意すべき点、そしてすれ違った時の対処法が分かります。また、トランスジェンダーのことが科学的に解説してるので、より広い視野を持つことができるでしょう。大人になっても役に立つ、人間関係のことが詰まった一冊です。

(守山高校1年 南川 哩玖斗さん)

37 『時給三〇〇円の死神』 藤まる 著 双葉社

時給三〇〇円で死神!?こんなばかげた話、あると思いますか? 思いませんよね。主人公も初めはうたがっていました。しかも、クラスのマドンナに言われるのですから驚きますよね!しかし、バイト初日の依頼が、たまたま好きな人からの相談をうけるというものでした。すると彼女はもう死んでいるということが分かり…!?半年間だけの死神生活!どんなものになるのか!?涙腺崩壊!ハンカチ必須!ぜひ読んでみてください!

(国際情報高校1年 平井 彩心さん)



38 『変化球男子』 M・G・ヘネシー 作／杉田七重 訳 鈴木出版

この本はトランスジェンダー男性の主人公シェーンに様々な困難が訪れますが、立ち向かい打ち勝ち、そして成長していく物語です。作中の「いいか、きみが女子であろうと、男子であろうと、なんならカンガルーであつたって、わたしはかまわない。」という言葉から理解者の存在の大きさを受け取ることができます。最近何かと耳にする「LGBTQ」についての本なので読んでみてはどうでしょうか?

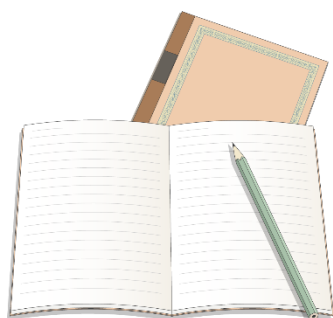
(河瀬高校1年)

39 『収容所から来た遺書』

辺見じゅん 著 文藝春秋

敗戦後ソ連にとらわれ、ロシアでのシベリア抑留中に死んだ男、山本幡男の半生と、過酷な捕虜生活、妻との夫婦愛、仲間達との絆を描いたノンフィクション作品。極寒、飢餓、重労働の中で家族を想い続け、懸命に前を向く彼に心打たれる作品である。彼と家族を繋げる唯一の手紙がどれだけ生きる希望になり、必要なものだったか。彼が最期に残した「遺書」を受け取り、彼の真っ直ぐな希望と力強さに、あなたもきっと心震えることだろう。

(守山高校1年 中井 花さん)



40『告白』 湊かなえ 著 双葉社

この本は生徒に愛娘を殺された教師による復讐を描いた物語である。僕が思うこの本の面白いポイントは、次々に衝撃の真実が明かされるところだ。複数人の登場人物がいるが、全て一人称で語られるため感情移入がしやすい。そのため、別の目線で見ている時には分からない問題を抱えていて、その人に対しての感情が嫌いだったのが、その人の目線になると、同情の気持ちになったりする。このように感情が揺さぶられる本だ。

(栗東高校1年 竹内 奏吾さん)

41『高校入試』 湊かなえ 著 角川書店

入試をぶつつぶそうとしているのは一体誰なのか？入試の実況中継、答案用紙の紛失、入試当日次々と謎の事件が起こる。この本は、23人の登場人物一人一人の言動や行動が鮮明に表現されている、ミステリー小説である。読んでみると全員が共犯者に見えたり、最後まで犯人が予測できない。あまり本を読まない私でも読む手が止まらなかった。最後の最後にわかる衝撃で感動の真実。あなたも一度この本を手にとってほしい。

(大津高校1年 原渕 叶望さん)



42『注文の多い料理店』 宮沢賢治 作 岩波書店

多くの人がこの本の内容、そして「オチ」を知っているでしょう。しかし、文章や表現などは知らずに「注文の多い料理店」という本はどういう本かわかった気になってないですか。改めてこの本を読んだうえで、文章の表現から想像できる場面を感じてみるのも、この本の醍醐味なのではないでしょうか。さあ、この本を読んでみなさんも「注文の多い料理店」に入ってみましょう。

(守山高校1年 関口 仁さん)

43『余命 3000 文字』 村崎羯諦 著 小学館

「あなたの余命はあと 3000 文字きっかりです」センセーションな一文から始まるこの物語は同名短編集に収録された一作。たった7ページで読者は作者の施した仕掛けの数々に言葉の世界の虜となる。「彼氏がサバ缶になった」や「笑う橋」など他 25 作品、どれも手軽で読みやすく一冊読み終える頃にはお気に入りの一作が見つかること間違いなしだ。読書習慣の薄れた現代人にこそオススメしたい令和の文学小説。ぜひ一度、ご一読あれ。

(長浜北星高校2年 青山 ゆづ希さん)

44 『月と六ペンス』

サマセット・モーム 著／金原瑞人 訳

新潮社

これは、画家ストリックランドの半生を描いた物語です。初めに断っておくと、この話にまともな人間は一人も出てきません。登場人物全員が次々と常識とはかけ離れた行動を起こしていきます。欲望に従って動く人間の泥臭さを映し出す鮮やかな描写が際立ちます。彼らは狂っているはずなのに、どこか、共感してしまう。そんな、先読み不可能の衝撃の物語に、あなたも足を踏み入れてみませんか。

(守山高校2年 坂口 遥奈さん)



45 『5分後に意外な結末 ベスト・セレクション』

桃戸ハル 編・著 講談社

読書はすぐに読み終わらないと嫌だなと思っている人はいませんか。この本は、そんな人にうってつけの本です。短編集なのでもものの5分もあれば読み終えることができます。そして、この本は短い話なのに奇想天外、想像を裏切る結末になっています。話の伏線がたくさんあり読み終わった後に、「ああ、そうだったのか」と思わずつぶやいてしまいます。興味のある人は一度この本を手にとり、読んでください。

(虎姫高校1年 田濃 和人さん)

46 『余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話』

森田碧 著 ポプラ社

あなたは余命があと少ししかないと知ったらなにをしますか？どんな感情を持つと思いますか？このお話は余命が一年しかない男の子が余命半年しかない女の子に出会い、そんな女の子の考えに惹かれていくお話です。余命が少なく一見悲壮的、絶望的であるかもしれませんが、そんなことは感じられず、とても温かい作品となっています。とても感動的で、これからの生き方について、みなさんも一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

(虎姫高校1年 川崎 小百合さん)

47 『夏の庭』

湯本香樹実 著 新潮社

これは中学受験を控えた三人の少年たちが、古家に一人で住むおじいさんを観察するところから始まる。「死」とは何なのかを深く考えることのできる作品であり、爽やかな夏の描写は、私たちの幼い頃の夏の匂いまでも蘇る。少年たちとおじいさんが過ごす一度きりの夏。当時は永遠だと思っていることがあっけなく終わってしまうが、思い出は一生心に残ることを教えてくれる作品。かけがえのない「今」を生きる学生たちにおすすめた。

(守山高校1年 佐野 心春さん)



48 『「のび太」という生き方』 横山泰行 著 アスコム

この「のび太という生き方」という本には主にドラえものの主人公であるのび太の生きている人生についてのことや人生に対する考え方についてアニメと関連づけておもしろく書かれています。この本のおすすめポイントは、普段は弱くていじめられっ子であるのび太へのイメージがとても変わるということです。この本を読むとのび太にでもできるんだと勇気が湧いてきます。自分に自信の無い皆さんぜひこの本を読んでみてください。

(国際情報高校1年 古川 善之さん)



49 『月とコーヒー』 吉田篤弘 著 徳間書店

原稿用紙十枚程の、短いお話が24編つまった短編集。「食」をテーマとし、なにもない日常の中の人との関わりや小さな気づきが繊細な情景描写によって表現される。この小説の特徴は物語が途中のような所で終わる点である。全ての話で登場人物に何らかの変化があるがその後はほとんど書かれていない。私たち読者に自然と登場人物のその後を想像させる終わり方をする。この作品は読む人の日常をささやかに豊かにするだろう。

(守山高校2年 芦田 織羽さん)

50 『さいはての島へ ゲド戦記3』

アーシュラ・K. ル＝グウィン 作／清水真砂子 訳 岩波書店

「死を拒絶することは生を拒絶することでもあるんだよ」。死を恐れ不死を願う主人公アレインに向けられた言葉だ。誰しも一度は死ぬことが怖いと思ったことがあるかもしれない。それは、人が死ぬために今を生きているからだ。この本は死への恐怖に対する考え方を教えてくれる本だ。主人公と共にアースシーの世界を旅しながら、自分なりの死生観を考えてみてはどうだろうか。

(大津高校3年 浅井 春子さん)